

第11回APCTP日本委員会会合議事録

日時：2013年年6月22日（金）午後5時から午後7時10分まで

場所：富国生命ビル23階 理化学研究所東京事務所会議室

出席者（順不同、敬称略）：九後汰一郎（京都産業大学）、藤川和男（理研仁科センター）、三宅和正（豊田理化学研究所）、河本昇（北海道大学）、矢花一浩（筑波大学計算科学研究センター）、高田康民（東京大学物性研究所）、古崎昭（理化学研究所）、横山順一（東京大学ビッグバン宇宙国際研究センター）、保坂淳（大阪大学RCNP）、多田 司（理研仁科センター）、堀内威志（オブザーバー KEK国際企画課長）
Skypeで参加；橋本幸士（理研仁科センター）、磯暁（KEK）

欠席者（順不同、敬称略）：岡真（東工大）、佐々木節（京都大学基礎物理学研究所）、井口英雄（日大）、早田次郎（京大理）

議事：

九後委員長を議長として会議開催。

1. 前回議事録承認

第10回APCTP日本委員会会合の議事録案が原案どおり承認された。

2. 委員長互選等

九後委員長が京都大学を定年で退職することによる委員交代に伴い、委員長を互選することとなった。委員長の適任者について、今後のAPCTPの方向性、日本委員会の役割を見据えての意見が交わされたが、最終的に投票を行うこととなった。被選挙権の確認するために、委員の任期を確認する必要が指摘され、そのために議題3を先に議論した。

3. 委員の任期について

これまで日本委員会委員の任期の始期について明確な定めがなかったところ、以下のように細則および施行規則を改正することが提案され、議決された：

一、APCTP日本委員会細則（例）の名称をAPCTP日本委員会細則とする。APCTP日本委員会規則施行規程中の参照名もこれに合わせる。

二、APCTP日本委員会細則に以下を付け加える。

5. 前項3および4の委員の任期は4月1日を始期とする。但し、任期途中で委員が交代する場合はこの限りではなく、交代する委員は前任者の残りの任期を務めるものとする。

6. 前項の規定に拘わらず、委員の後任の着任が遅れる等の場合は、後任委員の着任まで前任の委員がその務めを果たすものとする。

三、APCTP日本委員会規則施行規程3項に次を付け加える。

その任期を1年とされた委員の任期は2014年3月末日までとする。余の1名の委員の任期は2015年3月末日までとする。

ここで出席した委員およびSkypeで参加の委員による投票の結果、河本昇委員が委員長に選出された。以後河本委員長が議長を務めた。

4. 日本からの監事の推薦について

前回会合でAPCTP監事として推薦した高エネルギー加速器研究機構研究協力部国際企画課課長の竹島恒氏が、人事異動のため監事を続けられなくなったため、後任の推薦について検討した。現KEK国際企画課課長の堀内威志氏を候補として氏の経歴等が紹介された。堀内氏を監事としてAPCTPへ推薦することが議決された。

5. General Council member について

日本からのGeneral Council 3名の任期が本年末に切れることに伴い、後任のGeneral Council推薦について議論された。まず委員長より、前回会合で藤川委員より提案があった、日本からのGeneral Councilメンバーを日本委員会を構成する素・核・物性・宇宙の4分野の代表とすることを前提に4名のGeneral Councilを送る交渉をしたらどうか、との提案について、先方に非公式に打診したところ、日本のGeneral Councilのメンバー構成を変えるのは可能だが、中国等との調整が必要との見解が示された事が紹介された。またGeneral Councilの意義についての質問があり、会議は形式的になっており、具体的な議論がされることはなく、APCTPにとっては国外からサポートされているというお墨付きという意味合いになってきているとの見方が示された。これに対して、形式的なものであれば、日本側での意見交換ができていれば人数を増やすことを求める必要はないのではないか、との意見があった。一方General Councilメンバーの分野についてはAPCTPにより多く関わっている分野を優先するべきとの意見が出た。この結果、今後General Councilメンバーは、素粒子分野から1名、物性分野から1名、宇宙および原子核分野から交互に1名を出すこととし、次期General Councilメンバーは素粒子、物性、宇宙から推薦することとされた。具体的な人選については、各分野の委員で検討し、結果を取りまとめることとされた。

6. General Council 報告

4月のGeneral Councilについて資料に基づき多田委員から報告が行われた。古崎委員、河本委員から主に日本人研究者とのかかわり、IBSと所長選考とのかかわりについて補足があった。またPostechの学長が交代したことで、APCTPに対して好意的でない扱いになっているとの観測が紹介され、Fulde所長はIBSとのつながりを重視したいのではないかとの見方が示された。APCTPでの研究会から帰国直後であった橋本委員から、IBSの一つのGeometry and Physicsの開所式がPostechキャンパス内で行われていたのにAPCTPの研究者が全く関わっていない現状を懸念する意見が出された。日本側としては特に素粒子でAPCTPでの研究会に寄与してきており、今後もそのような貢献ができるとの意見が出た。一方日本人研究者の寄与として、JRGリーダーへの応募があまりないのではないかと、との感想が出された。

7. APCTP報告

APCTPよりの資料に基づき、APCTPの現状が紹介された。

8. 今後の方針

APCTP日本委員会の活動を周知することに関して、横山委員からAPPS bulletinがAPCTPが編集をすることになったので、APCTPの欄があり、ここに日本委員会のことを書いてはどうか、という提案がなされた。

また今後のメンバーシップフィーの支払いに関して、現在のKEKの支払いはあくまで暫定的な措置であることから今後何らかの形での分担およびメンバーエンティティの交代や回り持ちについて、今後検討していくことが確認された。

9. その他

委員長より前委員長の九後氏に顧問就任が依頼され、受諾された。